

国立大学法人島根大学経営協議会（第115回）〈議事要録〉

日時 令和3年5月19日（木）13:55～15:25
場所 本部棟5F大会議室（対面及びWEB会議）
出席者 服部学長，藤田理事，肥後理事，大谷理事，椎名理事，長澤理事，宮脇理事，
上野理事，大西委員，高塩委員，有澤委員，三輪委員，谷口委員，上定委員，
秦委員，大矢委員，福島委員
欠席者 なし
オブザーバー 千家監事，栗原監事

議題（1）令和4年度施設整備事業等の概算要求について

- 長澤理事から，令和4年度施設整備事業等の概算要求について説明があり，審議の結果，原案通り議決された。

議題（2）職員宿舍の集約・維持等に係る実施計画について

- 長澤理事から，職員宿舍の集約・維持等に係る実施計画について説明があった。
- 学外委員から，相当古い建物がありアスベストのリスクがあるので売却してもマイナスになる可能性を危惧している。直ちに本学の資産価額を減じる必要はないとの説明があったが，所謂含み損になるという理解でよいかとの質問があった。長澤理事から，他大学の例を参考にしながらリスクを軽減し，含み損が発生しない整備計画を進めていきたいとの説明があった。
- 学外委員から，資産の文化財的価値について，後々問題とならないようきちんと評価を実施し，関係者の理解を得たうえで処分を進めてもらいたいとの依頼があった。長澤理事から，文化財的価値については対応したうえで進めるとの説明があった。
- 以上の議論の後，原案どおり議決された。

報告事項（1）学長室規則等の制定について

- 学長から，学長室規則等の制定について報告があった。
- 学外委員から，学長室に置く広報戦略会議に関して，大学のブランディングや広報のアドバイスを行う専門の広告代理店もあるので利用を検討してはどうかとの意見があった。学長から，学長室に置く大学アドバイザーに小幡美香氏を委嘱し，観光及び広報戦略に関し助言をいただくようにしているが，広告代理店については精査したうえで検討していきたいとの発言があった。
- 学外委員から，常任理事会規程について，常勤理事と非常勤理事で機能や権能に違いはないはずだが，常勤理事だけが常任理事会で重要な意思決定に係る事前の討議・意見調整を行うことが規定されており，意思決定に関わる重みが常勤理事と非常勤理事で異なることになり相応しくないのではないか。上位規則で常勤理事と非常勤理事の役割を明確にする，常任理事会ではなく任意の打合せとするなどの方法がある。実質的な理事の役割に関わってくる部分なので検討した方が良いのではないかとの意見があった。学長から，発言の趣旨を踏まえ再度検討したいとの説明があった。

報告事項（2）ロゴマークのリニューアルについて

- 藤田理事から，ロゴマークのリニューアルについて報告があった。
- 学外委員から，学内に否定的な意見もあるので，新しいロゴマークの制作方法については，必要経費の多寡だけでなく，新たなロゴマークが島根大学の幅広いステークホル

ダーから愛着や親しみを持ってもらえて大学の求心力を高めることのできる存在とするために、ベースとなるデザインは学生や教職員、地域住民など広く一般公募によるプロセスを取った方が良いのではないかとの意見があった。藤田理事から、可能な限りアンケートを取り、場合によっては公募を行いながら選考することを含めて検討しているところであり、指摘を積極的に受け止めて進めていきたいとの説明があった。学長から、多くの方が愛着を持って使ってもらえるようなロゴマークを作りたいとの発言があった。

- 学外委員から、ロゴマークを変えることで形式が変わること自体は重要だが、実態をどう変えるのかという議論も当然重要なので、実態と形式と合わせて変えていくきっかけとしてはどうかとの意見があった。学長から、本学は地域と一体となった大学づくりを目指しており、教職員や学生がいかに地域と一体となれるかがポイントだと考えている。それに向けての改革はこれからも続けていくが、一つのシンボルとしてロゴマークを位置付けて、ロゴマークの変更によって大学の実態の改編をより一層加速し、教職員や学生が実感できるようにしていきたいとの説明があった。

報告事項（3）令和2年度資金運用報告について

- 長澤理事から、令和2年度資金運用報告について報告があった。

報告事項（4）附属病院運営状況について

- 椎名理事から、附属病院運営状況について報告があった。
- 学外委員から、新型コロナウイルス感染症患者の受入れ体制及びワクチン接種への協力、住民票を移していない学生へのワクチン接種について質問があった。椎名理事から、新型コロナウイルス感染症を災害と捉え、島根県や県立中央病院と連携しながら医療の提供体制を整えて対応しているとの説明があった。また、医療に従事している教職員へのワクチン接種については実施しているところであり、一般の方へのワクチン接種についても出雲市と協力していくとの説明があった。学長から、ワクチン接種が受けられるよう学生に対して住民票を移すようアナウンスしていきたいとの説明があった。

報告事項（5）理事（SDGs, 研究推進, 産学連携, グローバル化推進, 地域連携担当）の業務執行状況（強みと課題）について

- 大谷理事から、理事（SDGs, 研究推進, 産学連携, グローバル化推進, 地域連携担当）の業務執行状況（強みと課題）について報告があった。
- 学外委員から、令和2年度に科研費の基盤Aの採択が1件あったとのことだが、その内容及び今後基盤AやSの獲得に向けた戦略について質問があった。大谷理事から、令和2年度の基盤Aは次世代たたら協創センターの副センター長の研究が採択された。今年度についてもエスチュアリー研究センターのセンター長が新たに基盤Aを1件獲得しているが、両センターはさらに上を目指していかなければならない。それ以外の部局は先行事例に倣って連携を強め大型の資金獲得を目指しており、オープンイノベーション推進本部がその後押しをしたいと考えているとの回答があった。
- 学外委員から、次世代たたら協創センターもエスチュアリー研究センターも島根の資源を使った研究ということになるが、今後も島根の資源を活用してやっていくのか、それとは別の研究テーマを開拓していくのかとの質問があった。大谷理事から、本学は総合大学でありその研究分野は地域課題に根ざしたものから宇宙分野まで様々あるので、それらを核として結び付けて、地域で育てればたたらやエスチュアリーのように地域に根ざしたものが育つと考えている。地域課題解決は重要で核になるが、そのみにこだわ

ることなく卓越性は伸ばしていきたいとの回答があった。

- 学外委員から、科研費に関して、申請書の書き方の採択への影響及び不採択で評価の高いものを支援する取り組みの効果について質問があった。大谷理事から、本質は研究内容だが、同じレベルの研究内容であれば上手くアピールできている方が取り上げられやすいことから、本学でも書き方の指導を行っている。不採択の中でも採択に近い人には全学及び各学部で支援を行っており、研究内容のブラッシュアップや書き方の指導を繰り返し行うことで採択率が上がっているため、良い取り組みを学内で水平展開して強化することによって大学全体で採択率を上げていきたいとの回答があった。
- 学外委員から、SDGs について、大学はエネルギーの大口消費者でもあるが CO2 削減の目標値はあるのかとの質問があった。大谷理事から、以前から本学では環境マネジメントシステムの下で節電等に取り組んでおり、毎年目標を掲げて取り組んでいるが、ここからさらに菅総理大臣が掲げる 46%削減は非常にハードルが高いため、どれだけできるか査定中である。総力として何をカーボンニュートラルに持っていけるか項目を挙げていくとの回答があった。
- 学外委員から、地域の課題に対して色々な知見を持っている教員から解決策につながることを提供してもらい、松江市も含めて一緒に検討できれば良いと考えているとの発言があった。大谷理事から、地域課題を丁寧に伺って学内でマッチするものを探し、丁寧にたないでいく必要があると考えるとの発言があった。学長から、本学の地域貢献の一つの大きな柱として「じげおこしプロジェクト」があり県内各市町村と連携した取り組みを実施しているが、経済効果については課題なので、何らかの形で見える化することを目指していきたいとの発言があった。

報告事項（6）第 114 回国立大学法人島根大学経営協議会に係る書面審議結果等について

- 学長から、第114回国立大学法人島根大学経営協議会に係る書面審議結果等について報告があった。

- 学外委員から、議題 1 及び議題 2 について、議決に賛成するが別途意見を送付するとの発言があった。